



灯し続けた思いの軌跡

東京2020オリンピックの聖火リレーが5月25日・26日、京都府立京都スタジアム（亀岡市）で行われた。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、公道での走行を避け、閉鎖空間となるスタジアムでの代替開催。観客は走者の家族などに限られ、2日間で約180人が聖火をつないだ。

会場には、1週200mの特設コースが設けられ、1人当たり50m。ランナーは観客席に手を振り、笑顔を見せながらコースをゆっくりと走り、次の走者に聖火を受け渡す「トーチキス」の際には、それぞれが思い思いのポーズを取る見せ場となった。

兵庫県から受け取った聖火は、滋賀県へとつなぐれ、北陸、東北、北海道へと北上して折り返し、7月23日には会場となる東京へ到着した。



聖火に込めた思いの軌跡

～6人の舞鶴ランナー～

舞鶴市から聖火リレーに参加したのは、公道での実施予定区間の舞鶴市
区間から4人。また、綾部市、精華町区間を走る予定だった1人ずつの計
6人。それぞれが聖火リレーに込めた思いや聖火をつないだ感想を紹介。

中本朱音さん



テレビでオリンピック聖火ランナーのことを知りました。はじめは「ただ走るだけなんや」と思っていたのですが、お父さんからオリンピック聖火リレーのこと、日本での開催が一生に一度のことかもしれないことを聞き、もし走ることができればとても大きな経験になると思い応募しました。応募した当時の将来の夢は宝塚のトップスターでした。志望動機にはそのことと、舞鶴が大好きなこと、歴史や食べ物など舞鶴をPRしたいこと、それら全部を思いとして書きました。応募はしましたが、自分よりもオリンピック聖火ランナーとして強い思いを持っている人は多いと思っていたので、オリンピック聖火ランナーに選ばれるとは思っていませんでした。当選したことはお母さんに内緒にされていて、突然学校で教頭先生と担任の先生に呼び出され、何かしたかなあと不安に思っていたところ、聖火ランナーに当選していたことを知らされました。友達からは「おめでとう」「すごいじゃん」「こけるなよ」と応援してもらいました。



オリンピック聖火リレーがコロナのため1年延期になり、聖火ランナーとして走ることを一番喜んでくれたおじいちゃんが走る前に亡くなってしまったので、コロナは嫌いです。妹は聖火ランナーのサポートランナーとして応募してくれていて、コロナがなければ、一緒に舞鶴市内を走ることができたかもしれないので、とても残念でした。でも、ぐっとこらえて、コロナが収まってからやる方がまちも盛り上がるんじゃないかなと思い、走れる日を待っていました。

当日はとても緊張しましたが、緊張したこわばった顔で走るより明るく笑顔で走るほうがみんなを元気にできるかなと思って、舞鶴の人たちに笑顔を届けようとか早くコロナがなくなってほしいと思いながら走りました。走っている映像を見た友達からは「すごい緊張しているな」とか言われ盛り上がりました。

延期になった1年で今の状況を支えてくれている医療従事者の人たちはすごいなと思いました。自分も何かできないかなと考えて、今は、将来医療関係の仕事をしたいなと考えています。

これまでは「失敗したらどうしよう」「どうせダメだし」と物事をネガティブに考えがちでしたが、挑戦しようと思ったら絶対いいことがあると今回思えたので、この経験を生かして、今後は何事にも挑戦していこうと思います。



仲井祐子さん

オリンピック聖火リレーが1年延期となり、もしかしたらこのまま中止になるかもしれないという状況の中、聖火ランナーに選ばれた子ども達の一生に一度かもしれないこの機会を奪っていいのか、夢を奪っていいのかと色々考えました。一方で、このコロナ禍で本当に頑張っておられる医療関係の人の気持ちや東京2020オリンピックの開催についての色々な意見・状況についても考えました。

「走れるのかな」「走っていいのかな」と直前まで複雑で不安な気持ちでしたが、今になってみると、この延期期間のおかげでここまで人のことを本気で考えることができたんだと思います。延期にならなければ、聖火ランナーとしてただ走って満足していただいだけかもしれません。延期となったこの1年は決して全てが悪いものではなく、人として大きく成長できた貴重な1年だったと思います。

今回は結果として無事聖火リレーを走ることができましたが、やっぱり走ってみて初めて、こういう時だからこそ後ろ向きにならずに、ちょっとでも前向きになれる聖火リレーは必要だな、勝手な言い方かもしれませんが希望の灯みたいなものなんだな、嫌なこと、つらいこともたくさんあるけれどやっぱり人ってみんな前を向いて生きていくべきなんだなと実感することができました。

スタッフの皆さんはとても親切・丁寧で、安心できる状況の中で走らせてもらいました。なかでも「皆さんの笑顔が見たくてこの仕事をしているので、笑顔で走ってください」という言葉が心に残っています。その言葉で笑顔で走ることができました。

中学の学習支援員をしているので、オリンピックトーチは中学の体育祭に使ってもらおうかなと思っています。子ども達にも見て、触れてもらい、普段経験できないことも経験してほしいなと思っています。人生は自分の思うようにいかないことが多いです。頑張っても結果が出ないこともあります。でも頑張っていたら、その努力を見てくれている人が必ずいるので、頑張った過程はすごく大事にしてほしいと思います。今回の聖火リレーを通じて少しでもこのことを伝えられたらと思います。

スポーツの力はすごいと思います。マラソンをしてきたので、選手たちがどれだけの努力・苦勞をしてオリンピックの舞台に立つのか想像できます。選手の活躍はテレビを通じてでも絶対に感動を与えてもらえるので、今回のオリンピックが無事に終わることを願っています。





本田徹さん

聖火リレーは聖火を一つ一つ人がつないでいく。人と人のつながりは昔から大事にしてきたので、聖火ランナーとして聖火をつなぐ姿を見てもらうことで、いつも自分を支えてくれている家族や従業員の皆さんに、絆をつなぐことの大切さを伝えていきたいという思いがありました。

オリンピック聖火リレーが延期になり、中止にする都道府県もあつたなかで開催されるか心配でしたが、無事に開催され、走ることができました。今回亀岡で開催されることになりましたが、やっぱり舞鶴を走りたいかっただという思いが一番にはありますが、スタジアムの中の50mだけでも走れたというのは貴重な体験になりました。

当日は天気がとても良く、空は今までに見たことのない青さに見えてとても感動しました。非常に気持ちのいい瞬間で、今までになかった感覚の50mでした。距離的には短かったですが、走っている時は色々考えていたので、思ったより長く感じられたなと思います。

聖火リレーが中止になる可能性もあつたので、実は聖火ランナーとして走ることは、周りに言っていっていませんでした。従業員の皆さんにも直前に伝えたのでみんな驚いていました。走った後には色々な人から連絡があり、ここでも人と人のつながりを感じました。同じ聖火ランナーには隣の地区の昔から知っている方も参加していたので、こんなこともあるんだと驚きました。

トーチキスのポーズは、何も案が無ければ実行委員会の方が考えてくれますが、それではおもしろくないなと思って、聖火を受け渡す前後のランナーの方と案を出し合いました。私の次に走る方は、普段人力車を引っ張っておられる方で何か京都を取り入れたい、表現したいということで意見を出しあい「京都に」「おこしやす」にしようとしたところ、それがダイジェストに出ていたのは驚きました。

皆さんの気持ちを背負って走りました。人と人のつながりを大事にしてきましたが、今回も聖火を受け渡すことで改めてつながりの大切さを感じることができました。今はつながりが希薄になってきている時代なので、今後も日ごろから人と人の結びつきを大切にしていきたいと思っています。



大橋真起子さん

フィットネスクラブでコーチをしています。クラブにはたくさんのメンバーさんが来られていて、皆さんの頑張っておられる姿を見ると、こうした人たちをもっと増やしていきたいと思っていました。オリンピックレガシーの一つとして「運動を習慣にし、健康を維持する人を増やす」ということがあり、まさに私の思っていることでしたので、ぜひこのオリンピックの一部として関わり、メンバーさんに少しでも恩返しができるいいな、運動に興味がない人の運動をするきっかけになったらいいなと思い応募しました。

聖火ランナーに決定したことはみんなに驚かれました。これまでオリンピックに興味なかった人が、身近な人が走るからすごい興味が出てきたとか、オリンピックどうかなって思っていたけど、応援しようかなって言うてくれたりもしました。

皆さん舞鶴市内で応援するのを本当に楽しみにされていたので、それが叶わず残念でしたが、皆さんに笑顔、元気になってほしいと、カメラの向こうに皆さんがいると思って走り、あっという間に終わってしまいました。スタッフの皆さんは本当に丁寧で、すごく盛り上げてくださったり、チームの一体感がすごく良くて、最高の時間を過ごさせていただきました。

オリンピックトーチはクラブにも飾り、クラブのメンバーさんに見て触ってもらいました。「こんな時に明るい話題で元気にさせてくれてありがとう」「自分は走ってないけどすごくワクワクした」「家族に自慢する」とメンバーさんが想像以上に喜んでくれたので、いつも元気をもらっている分の恩返しできてよかったです。クラブ以外にも姉夫婦の営む飲食店に飾らせてもらったり、息子の通う高校の体育祭で使ってもらったりと、せっかくの機会なので色々使ってもらえたらと思っています。

スポーツの力はすごいです。高齢社会でこれからさらに自分の健康は自分で守ることが大事になってくると思いますが、最初の一步を踏み出せない方もおられます。運動って素敵な、体を動かすと違うんやなということを皆さんに伝えられるきっかけになればと思います。

今回の経験を通じて、夢はあきらめなければかなうとすごく感じました。これまでもそうしたことを言ってはいましたが、本当に心から今まで以上に、あきらめないことの大切さを伝えていけると思います。また、こうした経験をさせていただいたことに本当に感謝しています。





亀村美由紀さん

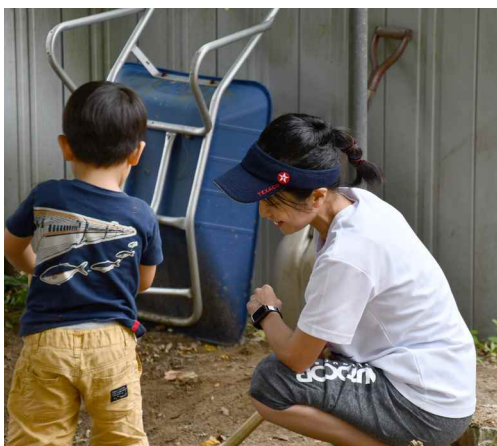
20年ほど前に難病を発病して幼稚園を退職しました。当時担当していた子ども達が20歳ぐらいになった今、その子たちに頑張っている今の自分の姿を見せたい、これまで支えてくれた人へ恩返しをしたいという思いで走りました。

延期になったときは、来年、元気に走ることができるか不安に思いましたが、こうして走ることができました。聖火リレーの前日には今働いている幼稚園の先生方がメッセージを書いた横断幕を出して応援してくれました。当日は横断幕も持って行き、しっかりと幼稚園の皆さんの力を受け取って走りました。スタッフの方も走る直前まで気持ちを盛り上げてくださったので、リラックスして走ることができました。こうして50分だけでも走ることができたのは、環境を整えてくださる方々があってこそなのでとても感謝し、自分は生かされているんだなと感じました。

走る姿を見た教え子たちや教え子の保護者の方からは「先生見ましたよ!」と連絡があったり、手紙ももらったりして、とてもうれしかったです。

同じような病気を持っている方からは「走ることが羨ましい!」と言われてたり「ずるい」と言われたことがありますが、私もいずれは走れなくなる時を迎えると思います。その時を迎えるまでは自分で自分の人生を豊かにしていこうと思いますし、こうして聖火ランナーとして表舞台に立つことで私のように普通に見えて病気を持っている人もいることを皆さんにも知ってもらえたらいいなと思います。そして、病気を持っている人にとって、今以上に働きやすい環境が整備できれば嬉しいです。今働いている幼稚園はとても働きやすい環境を整えてくれているので、これが色々な所へ広がっていけばいいなと思います。

舞鶴出身ではないので、舞鶴に来た当初は友達もおらず子育てなど悩むことも多くありましたが、色々な方が支えてくれました。病気になった時に立ち直らせてくれたのも舞鶴です。なんで舞鶴に生まれなかったんだろうというぐらい、舞鶴に愛があります。自分の子どもや家族はもちろん、今働いている幼稚園の子ども達が全力で遊ぶ姿やパワー、地域の皆さんの支えは薬より元気にさせてくれます。皆さんのおかげで私が走れたように、舞鶴が私を支えてくれたように、微力ではありますが、今後の人生で色んな人へ、舞鶴へ恩返しをしていきたいと思っています。



山本新之介さん

以前はチェアスキーアルペン、現在は車いすハンドボールをしています。

これまで車いすハンドボールは世界ルールが完全に確定していませんでしたが、今ようやく世界ルールの統一に向け動き出しています。いずれは車いすハンドボールのプレーヤーとして、日の丸を背負いたいという思いや、オリンピック・パラリンピックに出場するトップアスリートの方を応援したいという思いを込めて聖火リレーに応募しました。

福島からたくさんの方がつなぎ、たくさんの思いの込められたオリンピック聖火は地球上に1つしか存在しません。走っているときはこの火を絶対につながらないといけないと思ひ必死で、50秒が長いのか短いのか感覚もなくあっという間に終わりましたが、無事つながることができてよかったです。

聖火ランナーの皆さんはこれまで頑張ってきた方ばかりでしたので、私もこれからもっと頑張っていけないといけないなと刺激を受けました。健康で長生きして次の日本開催のオリンピックでも聖火ランナーとして走りたいという目標もできました。

会場運営やスタッフの皆さんの対応は完璧で、走っている間以外もすごく良い雰囲気でした。テレビなどでは映らない裏方の素晴らしさにも感動しました。とても貴重な経験をさせていただき感謝しています。

開催についてはコロナ禍で批判的な意見もありましたが、こうして聖火リレーが終わってみると、ありがたいことに注目していただき、やはり皆さん期待しているんだなと分かり嬉しさもありました。聖火が無事につながり、オリンピックが無事に終わる。そしてパラリンピックへとつながっていきます。皆さん期待されていると思いますし、私も聖火ランナーとして何かできることがあればしていきたいと思います。

今回こうして走ることができたのは、チャレンジしようと一歩踏み出したからです。踏み出したからこそ聖火ランナーとして走れました。踏み出すことで何かが大きく変わることがあるかもしれません。一歩踏み出すといっても重く考えるのではなく、ちょっとやってみようぐらいの感覚でやってみるのでもいいと思います。好きなことならモチベーションも高く、どんどんチャレンジしていけるので、好きなことをやるというのは大切だと思います。それがスポーツであれば最終的にオリンピックにもつながっていくのではないかと思います。



Photo by Tokyo 2020

